

94. 仏教アパブランシャ語偈頌の基礎的研究

広島大学大学院人間社会科学研究科総合人間科学プログラム 教授 杉木 恒彦

概要

本研究の目的は、初期中世期インド亜大陸東部（ネパールを含む）における仏教アパブランシャ語偈頌の体系的な研究の礎を作ることである。具体的には、(1) 仏教文献の既刊テキストと写本からアパブランシャ語偈頌をできる限り多く収集し、(2) 類似した偈頌と単語の相互参照ができる資料集を作成し、(3) 未刊行のいくつかのアパブランシャ語偈頌の予備的な校訂テキストとその訳注を作成した。2024年8月等にネパール（カトマンドゥ）の国立考古局等に赴いて、仏教アパブランシャ語写本等の関連資料を収集し、日本国内においては、それら写本のトランスクリプションと解説を可能な限り進め、テキストファイル形式で検索可能な状態にした。その成果の一部を、2024年3月の国際研究集会（Genesis and Formation of Newar Buddhism Conference：カルフォルニア大学）等で発表した。以上の成果の先に見える次の課題は、関連資料をさらに精査・収集し、上述のアパブランシャ語偈頌データベースを一層充実させていくこと、様々なアパブランシャ語テキストの精緻な校訂と訳注作成を進めること、それらによりアパブランシャ語偈頌という観点から見た南アジア仏教史の再構築を検討していくことである。最後に、三菱財団からの助成金により、ネパールでの写本等の資料調査が可能になり、それにより上記研究の道が開かれたことを強調しておきたい。人文学の研究、そのうち本研究のように文献学の基礎研究に対し助成金を準備してくれる制度は決して多くない。三菱財団からは貴重な機会を得たと真に感謝している。

背景および目的

初期中世期インド・ネパール仏教のアパブランシャ語偈頌は、インド仏教の最後期の重要な一側面である。また、現代ネパールのネワール仏教僧（金剛阿闍梨 Vajrācārya）に伝承されている密教行歌チャチャー（cacā）など、インド東部の各伝統の宗教歌の形成の一因になった可能性も指摘されている。仏教アパブランシャ語偈頌は、南アジア仏教の思想・実践史の全体像を理解するうえで、無視できない要素である。だが、その研究は十分に進んでいるとは言えない。アパブランシャ語偈頌のテキストが刊行されている場合であっても、訳注など分析が十分にあるいは全く施されていないものも少なくない。研究の遅滞の根本的な原因は、サンスクリット語と異なり、仏教アパブランシャ語の言語学的特徴（文法と語彙）が十分に明らかにされていないことにある。そもそも、その言語的特徴を考察するのに十分な数の偈頌がまだ収集できていない。

以上の問題点を踏まえて、本研究は、初期中世期インド亜大陸東部（ネパールを含む）における仏教アパブランシャ語偈頌の体系的な研究の礎を作ることを目的とした。具体的には、(1) 仏教文献の既刊テキストと写本からアパブランシャ語偈頌をできる限り多く収集し、(2) 類似した偈頌と単語の相互参照ができる資料集を作成し、(3) 研究期間で可能な限りのアパブランシャ語偈頌の予備的な校訂テキストとその訳注を作成した。

方法

代表研究者と分担研究者は2024年8月等にネパール（カトマンドゥ）の国立考古局等に赴いて、関連する仏教アパブランシャ語写本とサンスクリット語の写本（複写）ならびにネパールのネワール仏教のチャチャー歌の

資料を可能な限り収集した。日本国内においては、代表研究者と分担研究者は個別に、そして年 2 回の国内研究会を通して、それら写本のトランスクリプションと解説を可能な限り進め、そのデータをテキストファイル形式で検索可能な状態にした。

結果および考察

本研究の代表的な成果は以下の 3 点である。(1) 仏教アパブランシャ語写本ならびに関連する写本は多数あり、今後も継続的に現地調査が必要である。1 年間という研究期間では網羅的なものにはなりえなかったが、今後の発展につながるテキストファイル形式で検索の容易なデータベースの基礎的部分を作ることはできた。(2) 複数の仏教アパブランシャ語写本の解説に取り組んだが、そのうち特筆すべき成果を 1 点記す。12 世紀前半頃成立の『ダーカールナヴァ・タントラ』に含まれる多数のアパブランシャ語偈頌の約 2/3 の偈頌が、ヴァジュラヴァーラーヒー女尊の根本真言をめぐる教説であることを見抜くことができたことである。従来は Chaudhuri (1935) が『ダーカールナヴァ・タントラ』のアパブランシャ語偈頌に関する主たる研究であったが、Chaudhuri はそのことに気付いていなかった。新たに発見した観点から同アパブランシャ語偈頌の精緻な校訂と訳注作成を行う必要がある。(3) 以上の 2 点の成果の一部を、代表研究者と分担研究者は招待された 2025 年 3 月にカルフォルニア大学バークレー校での国際研究集会 The Genesis and Formation of Newar Buddhism Conference で口頭発表し、同研究集会が Vajra Publications (Gainesville) より刊行予定の査読付き論集にその論文の寄稿を行った。加えて、上記成果の一部を、代表研究者は、2024 年 12 月に刊行した査読付き英文単著 (Secret Signs of Heroines and Heroes. Basel: MDPI) の Appendix C の中で扱った。

以上の成果の先に見える次の課題は、関連資料をさらに精査・収集し、上述のアパブランシャ語偈頌データベースを一層充実させていくこと、『ダーカールナヴァ・タントラ』などのアパブランシャ語テキストの精緻な校訂と訳注作成を行うこと、そしてそれらを行いながら、アパブランシャ語偈頌という観点から見た南アジア仏教史の再構築を検討していくことである。

(完)

発表論文

- 1) 【口頭発表】代表研究者
Sugiki, Tsunehiko (杉木恒彦). Psychophysiology of the Samvara Literature from India to Nepal. *Genesis and Formation of Newar Buddhism Conference*. 於カルフォルニア大学バークレー校 (カルフォルニア州、アメリカ)、2024 年 3 月 8~10 日
- 2) 【口頭発表】代表研究者
杉木恒彦「ヴァジュラヴァーラーヒーの根本マントラ」第 75 回日本印度学仏教学会、駒澤大学、2024 年 9 月 7~8 日
- 3) 【口頭発表】分担研究者
Kitada, Makoto (北田信). Cacā Songs. So-called New Caryāpada in Kathmandu. *Genesis and Formation of Newar Buddhism Conference*. 於カルフォルニア大学バークレー校 (カルフォルニア州、アメリカ)、2024 年 3 月 8~10 日
- 4) 【口頭発表】分担研究者
北田信「ネパールの仏教秘儀歌チャルヤー (チャチャー)」第 37 回日本南アジア学会、国立民族学博物館、2024 年 9 月 28~29 日
- 5) 【単著】代表研究者
Sugiki, Tsunehiko (杉木恒彦). *Secret Signs of Heroines and Heroes, A Critical Edition and Translation of Chapters 26–27 of the Dākārṇava and Chapters 3 and 38–45 of the Abhidhānottara*. Basel: MDPI, 2024 年 12 月